

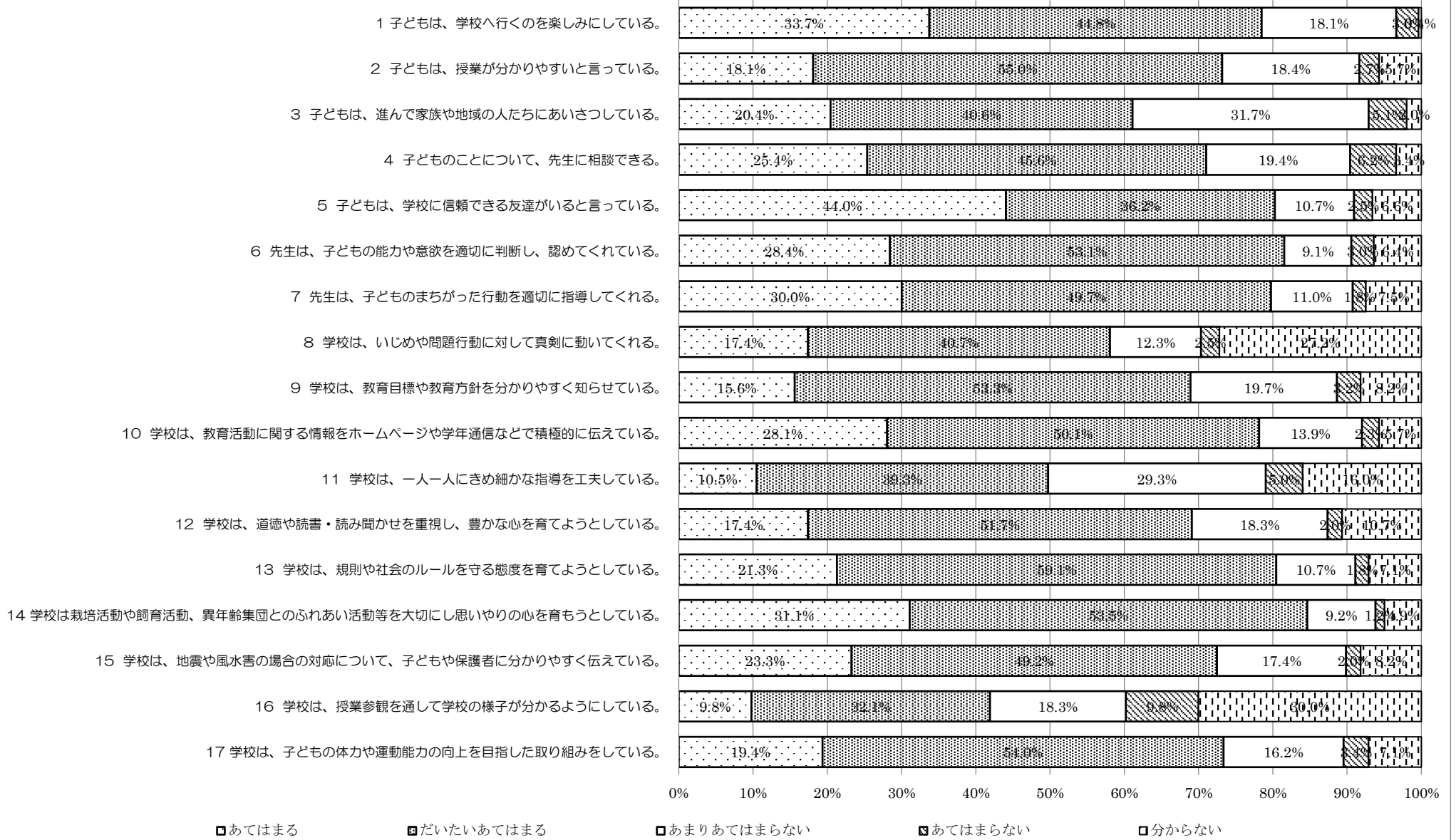
令和3年度幸田小学校学校教育診断アンケートの集計結果について

令和4年3月9日

12月にお願いをして実施いたしました幸田小学校「学校教育診断アンケート」の集計結果を、下記の通りお知らせいたします。ご多用のなか、ご協力有り難うございました。この結果をもとに、より充実した教育活動が展開できるよう改善できることから取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

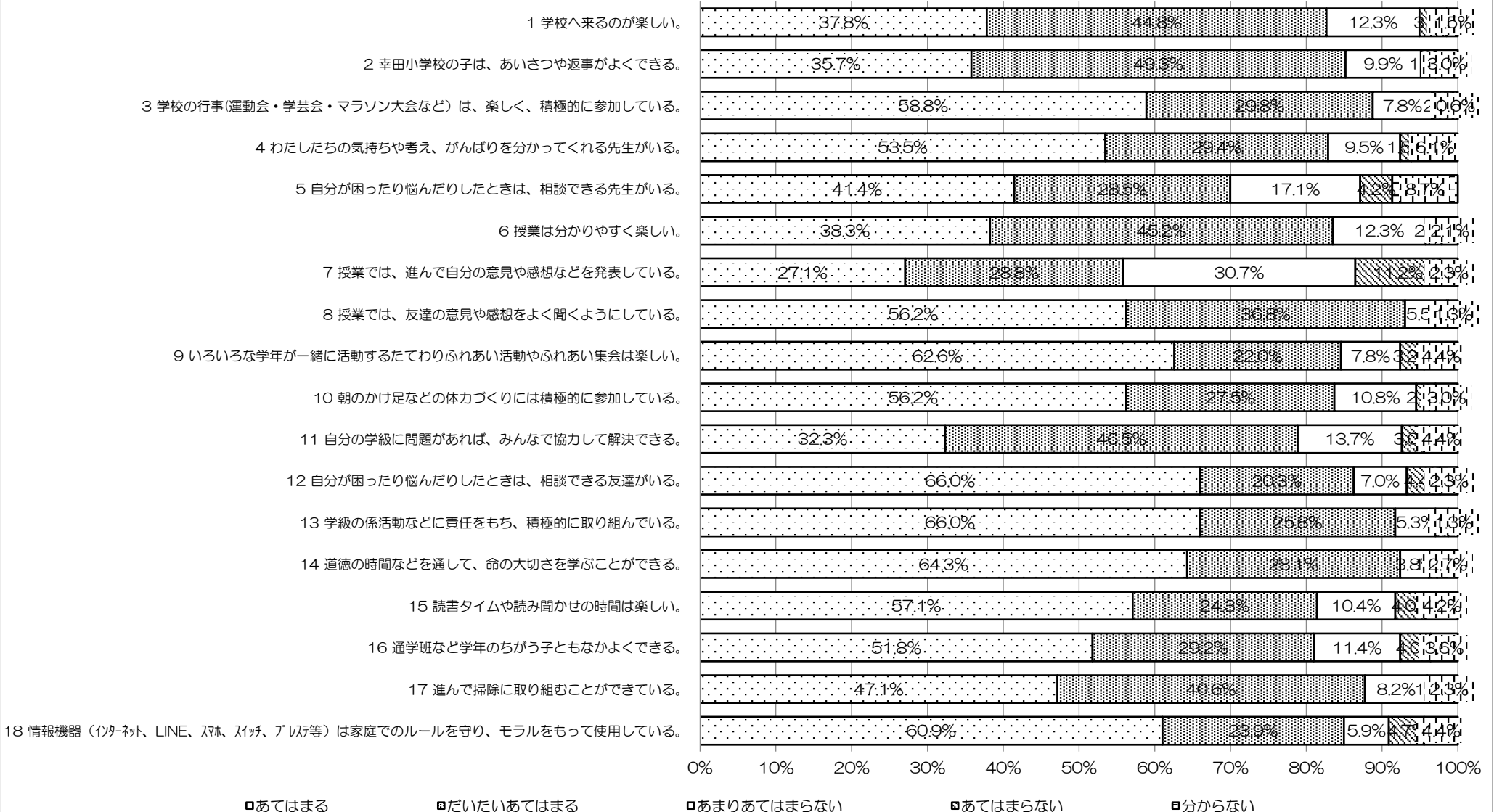
1 集計結果一覧グラフ（保護者）

令和3年度学校教育診断アンケート（保護者）集計結果 令和3年12月実施



2 集計結果一覧グラフ（4～6年児童）

令和3年度学校教育診断アンケート（児童）集計結果 令和3年12月実施



3 調査結果から見た傾向や特徴 ※ () 内の数値は、昨年度との比較

楽しい学校生活

「1 学校へ来るのが楽しい」と答えた児童は82.7% (+1.7%) で微増、「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」と答えた保護者は78.5% (-6.0%) と、昨年度よりも減少しましたが、高い割合を示しています。コロナ禍において学校での教育活動が制限される中、多くの児童、保護者の方がこのような認識を示していただけたことを大変ありがたく思います。来年度以降もコロナの終息は見込めない中、今までの教育活動を見直し、工夫することで、「つながりと温もり」のある学校・学年・学級づくりに努め、より学校生活が楽しいものになるよう全職員で取り組んでいきたいと思ひます。

学ぶ意欲を高める授業

「2 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」と回答している保護者は73.0% (-5.4%) で昨年度よりも減少しています。「6 授業が分かりやすく楽しい」と回答している児童は83.5% (+0.1%) と微増でした。「7 授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」と回答している児童は55.8% (-6.3%) で、昨年度よりも減少しました。ペアやグループ等の話し合いの形態が制限され、友達とのかかわり合いの授業が少なかったことが影響していると考えられます。一方、「8 授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と回答している児童が93.0% (-0.1%) と、昨年度同様、聞く姿勢が大変よく身に付いていることが分かります。「11 学校は、一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫している」と回答している保護者は49.7% (-8.5%) と大幅に減少しました。今後活用が促進されていくタブレット端末と併せ、授業形態、指導方法を工夫していくことで、さらに丁寧な子ども理解と個別指導に努め、十分な学びの高まり・深まりに結びつけていくと共に、児童が自分の考えに自信をもって表現できるように支援していきたいと思ひます。

基本的な生活習慣

「2 幸田小学校の子は、あいさつや返事がよくできる」と回答した児童は85.0% (+3.1%) で、引き続き全体的な意識は高いといえます。一方「3 子どもは、進んで家族や地域の人たちにあいさつしている」と回答している保護者は61.0% (-4.8%) であり、子どもの意識と保護者の意識との違いが顕著となっています。本校職員も、登下校時のあいさつ、返事、声の大きさ等も含めて、子どもたちのあいさつは、まだまだ十分とは言えないと感じています。登下校中や地域でのあいさつに対する児童の意識を高め、相手に思いの伝わる、爽やかなあいさつのできる児童を育てていきたいと思ひます。

一人一人を大切にしたい教育活動・いじめへの対応

「12 自分が困ったり悩んだりした時は、相談できる友達がいる」と回答している児童は86.3% (-1.0%) と高い割合ではあるものの、若干減少しました。コロナ禍にあつて、学校生活における子ども同士のかかわり合いが減っていることが起因していると考えます。一方「4 子どものことについて、先生に相談できる」と回答している保護者は71.0% (-3.4%) とやや減少しました。「5 自分が困ったり悩んだりしたときは、相談できる先生がいる」と回答している児童は70.0% (+0.8%) と微増しました。子どもたちの心に寄り添い、児童が悩みや苦しみを一人で抱え込むことなく、気軽に相談できる雰囲気・体制作りに努め、信頼される教職員集団を目指していきたいと思ひます。「6 先生は、子どもの能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」と回答した保護者は81.5% (-3.0%)、「4 わたしたちの気持ちや考え、がんばりを分かってくれる先生がいる」と回答した児童は82.9% (-0.1%) で、保護者、児童とも高い水準を維持していますが、いずれも減少しました。認められていない、分かってもらえていないと感じている児童も少なからずいることが分かります。教職員一人一人の、児童の変化に気づき、見つめ、見抜く力を高め、児童の良いところを伸ばす指導を大切にしていきたいと思ひます。「8 学校は、いじめや問題行動

に対して真剣に動いてくれる」と回答した保護者が58.1% (-13.1%) と、昨年度より大幅に減少し、厳しい結果となりました。この結果を真摯に受け止め、いじめや問題行動に対する指導の在り方を、しっかりと見直していきたいと思ひます。いじめアンケートや個別面談、いじめ・不登校対策委員会や週1回の情報交換会の実施、専門機関との連携等、これまでの活動をさらに充実させると共に、日常生活における児童のわずかな変化にいち早く気づき、問題を未然に防ぐ等、保護者や児童から信頼される学校・学級づくりに努めていきたいと思ひます。

開かれた学校

「9 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている」と回答した保護者は、68.9% (-7.4%)、「16 学校は、授業参観を通して学校の様子が分かるようにしている。」と回答した保護者は、41.9% (-3.7%) と、ともに減少となりました。子どもたちの学びや生活の様子を見られない不安を口にされる保護者の思いは学校にも届いています。再度、行事等の意義や目的等を見直し、子どもの学びや成長にとって有益となる実施方法を工夫し、教育活動の充実に努めていきたいと思ひます。今後の感染状況に注視しながらではありますが、授業参観、ホームページや通信等を通じ、学校の教育活動の様子をお伝えする機会を増やすことで、保護者のより一層のご理解とご協力を得られるよう努力をしていきたいと思ひます。

心の教育

「12 学校は、道徳や読書・読み聞かせを重視し、豊かな心を育もうとしている」と回答した保護者は69.1% (-4.6%)、また、「15 読書タイムや読み聞かせの時間は楽しい」と回答している児童の割合は81.4% (+5.0%) となっています。子どもたちは、読書タイムや読み聞かせの時間をとても楽しみにしている様子が見られます。今後も読書タイムや読み聞かせの時間を大切にしていくとともに、一層、道徳の時間を重視し、心の教育の充実に努めていきたいと思ひます。「17 進んで掃除に取り組むことができている。(児童)」と回答している児童が87.7% (-2.1%)、「13 学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。(児童)」と回答している児童が91.8% (+0.6%) と割合として高く、学級内において児童一人一人が役割を持ち、責任を果たしていることも結果として出ています。しかし、「11 自分の学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。(児童)」と回答した児童は、78.9% (-0.7%) と少し割合が減少しています。子どもたちの責任感、意欲を大切に育てながら、児童が自分たちの手で問題を解決していける自治的能力を育てたいと思ひます。「9 いろいろな学年と一緒に活動するたてわりふれあい活動やふれあい集会は楽しい」と答えた児童は84.6% (-1.8%) と高い割合となっています。わずかな機会しかありませんでしたが、ふれあい集会、縦割りふれあい活動を通して異年齢集団のかかわりを大事にしてきた成果と言えます。「16 通学班などの学年のちがう子どももなかよくできる」と回答した児童は81.0% (-1.1%) となりました。通学班での子ども同士のかかわりは、安心・安全な登下校の実現に大きく影響を与えます。通学班等の日常の活動において良好な人間関係を保つための適切な指導と支援を続けていくと共に、保護者、地域の皆様と協力し、子どもたちの登下校の様子を見守る体制づくりに努めていきたいと思ひます。

体力づくりへの取組

「17 学校は、子どもの体力や運動能力の向上を目指した取り組みをしている」と回答した保護者は、73.4% (+1.4%)、また、「10 朝のかけ足などの体力づくりには積極的に参加している」と回答した児童も、83.7% (+16.4%) と、大幅に増加しています。コロナ禍においても、体力づくりの時間と場所を工夫・確保し、児童の体力向上に努めていきたいと思ひます。